

新潟県から送り出された開拓団

県内からは中魚・中蒲両郡を重点に

新潟県初の集団移民送出が第6次の五福堂開拓団で、1937年(昭和12)4月9日、当時の北安省通化県に入植しました。このときは、入植計画戸数200戸に対して212戸が入植しました。達成率が106%でした。初期の開拓団編成では、計画戸数に対する達成率はほぼ100%でした。しかし1936年以降は戦死者が増え、補充兵の召集があいつぎ、労働力不足が深刻化したことから開拓団員の達成率も30%から40%にとどまるようになりました。そこで県では、国の方針にもとづいて「分村分郷移民方針」を推進したものの成果はありませんでした。また中魚沼郡と南蒲原郡を、特別指導郡に指定した結果、第11次(1941年)以後の10開拓団のうち8つまでもこの両郡から送り出されることになりました。

満蒙開拓団等送出数上位県

順位	県名	開拓団員(名)	義勇隊員(名)	計(名)
1	長野	31,264	6,595	37,859
2	山形	13,252	3,925	17,177
3	熊本	9,979	2,701	12,680
4	福島	9,576	3,097	12,673
5	新潟	9,361	3,290	12,641
6	宮城	10,180	2,239	12,419
7	岐阜	9,494	2,596	12,090
8	広島	6,345	4,827	11,172
9	東京	9,116	1,995	11,111
10	高知	9,151	1,331	10,482

(「長野県満州開拓史総編」より)



新潟県初の五福堂開拓団に参加した新潟市の伊藤四郎キミ夫婦。

新潟港が渡溝の出発港に

全国初の「満蒙開拓館」開設

開拓団送出には、当初、県としては積極的でなかったようです。1936年(昭和11)には、拓務省東亜課長が「新潟県がどうして移民政策に不熱心なのか合点が行かぬ。満州移民は国策である。山形や長野は実に熱心にやっている」と、奮起を促しています。

満蒙航路の一つの代表港であった新潟港が満州移民の出発港となり、全国初の「満蒙開拓館」が開館しました。「開拓館」とは、その目的を「満州開拓民及び満蒙開拓青少年義勇軍並びに同関係者の宿泊を中心とする目的とし、開拓に関する諸種の事業を遂行す」と定められています。

昭和13年8月12日の閣議では、新潟一羅津間の日本海航路を日満連絡の幹線とし、新潟港を満州開拓民の送出港に決定しました。大半の一般開拓民、青少年義勇軍が新潟港から大陸へ向かいました。



力を合わせて

(写真は写真集『望郷満州』 図書刊行会より)



原野の開墾

「匪賊」の襲撃に備え、交替で銃を持って警備に立つ。

(写真は残間てるよ編著『父と母の開拓団「五福堂」引揚記』より)

関連ホームページ



[『未墾地に入植した満蒙開拓団長の記録:堀忠雄『五福堂開拓団十年記』を読む』](#)

<https://allreviews.jp/review/5806>